



みずほ 瑞歩ちゃん(平成21年9月1日生)
両親＝江ヶ崎淳司・深智瑠さん〔江ヶ崎〕
「わたしもよちよち歩きで
おいしい野菜づくりのお手伝いをするよ」



りおん 莉音ちゃん(平成22年8月3日生)
両親＝吉岡正貴・由美さん〔岩井〕
「パパとママが大好き♡
明るく元気な女の子」



たいが 大雅ちゃん(平成22年8月2日生)
両親＝加瀬利晴・知子さん〔鎌数〕
「わが家に天使が舞い降りた！」

すこやかちゃんを募集しています

掲載を希望する人は、秘書広報課広報広聴班(〒289-2595旭市二の1920・☎62-8070)へ。
対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、旭市保健センター、飯岡保健センター、秘書広報課にあります。



ふるさとの自然

人里で繁栄する ヒヨドリ

寒い季節になると鳴き声や姿をよく見掛けるヒヨドリ。旭市の辺りでは「シギ」と呼ばれている鳥がヒヨドリです。

○鳴き声が名前の由来

ヒヨドリは市内全域で普通に見掛ける鳥で、庭にもよくやって来ます。全身が黒っぽい灰色で尾が長く、木から木へと渡って行きます。甲高い「ヒーヨ、ヒーヨ」という鳴き声からその名が付きました。

○柔軟性のある暮らしぶり

ヒヨドリは雑食で、木の実や花の蜜のほか、昆虫も食べます。旭市辺りでは、以前は冬になるとやって来る冬鳥でした。そのうち、夏も残って庭や公園の木に巣を作って繁殖するようになり、一年中見られる留鳥になりました。人里には餌が多く、人々も野鳥に対して優しくなったので、暮らしやすいのでしょう。このように環境に合わせて習性を変える柔軟性を持っていることが、繁栄の決め手です。

○数が増えて害を与えることも

一年中見られるヒヨドリですが、冬になると数が増えて目立



つようになります。寒い地方のヒヨドリが暖かい地方に渡って来たのでしょうか。銚子では秋に大きな群れが海の上を南へ渡って行くのを見ることが出来ます。しかし数が増え過ぎて、畑のキャベツや果実などを食い荒らす困った一面もあります。

○種まきのお手伝い

ヒヨドリがよく止まる枝の下には、いつの間にかヤツデやアオキなどの木が芽生えています。ふんの中の種から芽が出たのです。実のなる木は実を食べさせる代わりに、種をあちらこちらに運んで、ふんと一緒にまいてもらっています。

(齊藤敏一)

暮らしのカレンダー

- 1日(土) 元旦
- 4日(火) 市役所仕事始め
- 8日(土) 消防出初式(午前9時30分 旭スポーツの森公園)
- 9日(日) 成人式(午前10時～ 東総文化会館)
- 10日(月) 成人の日
- 18日(火) とがらしごぼう(午前5時～ 西宮神社)
- 30日(日) 音楽鑑賞教室日本ニューフィルハーモニック管弦楽団コンサート(午後2時30分～ 東総文化館)

編集後記

広報を郵送でお届けしている方の中で、毎号、お礼の手紙をくださる方がいます。お礼の言葉とともに、庭先の木々の様子などを添えた、季節感のあるとても温かな便りです。毎号楽しみに、そして大切に読んでくれているのだと思うと、大変ありがたく、励みにもなっています。これからも広報は、より多くの人に楽しく読んでもらえるよう、季節感を大切に、笑顔いっぱい、温かみのある紙面を目指してがんばりたいと思います。
本年も「広報あさひ」をよろしくお願いします。(ま)